

馬と人の古代史

—東国の馬生産を中心に—

若狭 徹 (明治大学・群馬県立歴史博物館)

1. 馬生産の開始・5世紀(古墳時代中期)

- ・魏志倭人伝「その地に牛・馬・虎・豹・羊・鵲なし」……弥生時代末～古墳時代前期の馬の物証はわずか
馬骨:大阪府亀井遺跡・山梨県塩部遺跡・長野県篠ノ井遺跡群など。木製輪鐙:奈良県箸墓古墳周濠
➡散発的渡来(積山 2010)
- ・5世紀から……副葬品における馬具増加、馬形埴輪の出現 ➡本格的な馬利用の開始
- ・高句麗広開土王碑(414 年)における倭の軍事行動記事
400 年・倭軍(百済の同盟勢力)が新羅の都を囲む。／404 年・帶方郡に攻め入り高句麗に迫る。
いずれも、広開土王が大軍で倭を駆逐。 ➡対外交流で馬の効用を認識。生産システム移入。
＜参考＞『日本書紀』応神天皇 15 年、百済王が阿直岐を遣し良馬 2 匹を献上。軽の坂の上の厩で阿直岐に飼育させた。

2. 馬の効用

- ・人力だけの世界 ➡畜力が付加される。・最初の動力革命 ➡ 第2次は蒸気機関・内燃機関
- ・荷役馬の運搬能力 ➡人間の 3 倍程度[『延喜式』木工寮式人担条, 瓦の人担重量 60 斤(40 kg)(清野 2023)／馬の積載量,『続日本紀』天平 11 年(739)年条, 200 斤(120kg)を改め 150 斤(90 kg)とする規定／現代人の運搬, 厚労省指針では 20 kg(継続作業)。(参考, 1俵 60 kg)]

○駿馬

- ・権威表象……装飾馬具(飾り馬)。古墳時代豪族の憧れ。
- ・軍事……実用馬具多出。官号舎人(金刺舎人・他田舎人) ➡舎人騎兵(6世紀)。※文献上の騎兵の組織運用は壬申の乱(672年)。

○駄馬

- ・荷役・農耕……実用馬具。荷鞍。馬鍬。犁。
- ・情報伝達……駅伝制。古代国家の地方統治戦略。
※皮革・肉の利用(死馬の利用)

3. 古墳時代における馬生産の定着

○考古学的証拠・大阪府葦屋北遺跡／河内平野での馬生産開始(5世紀中葉)

- ・馬遺体・馬埋葬土壌・馬具(鐙轡・鞍・輪鐙)・製塩土器・韓式系軟質土器・竈・鍛冶遺物(羽口・鉄滓)・鹿角製品
➡渡来人と在来倭人の協業による牧経営の開始。渡来人の墓制は群集墳中の円墳や方墳の可能性。

＜参考＞沙羅羅馬飼造・菟野馬飼造(天武紀)

○葦屋北遺跡(5～6 世紀)における馬遺存体の分析

- ・時期下降に従い馬齢上昇 ➡幼齢馬から高齢馬へ。馬管理の成功。他所からの移入。
- ・ストロンチウム分析・酸素同位体分析 ➡東日本から移入された馬の存在(植月 2024 ほか)。

※『日本書紀』継体6年……百済に筑紫国の馬 40 頭を贈る。6世紀前半には輸出側への転換。

＜参考＞河内馬飼首荒籠(継体大王のブレーン)

4. 東国における馬生産

ア)伊那谷の動向

○飯田古墳群の形成

・4世紀には中型の前方後方墳のみ／5世紀中葉以降の古墳から馬遺存体・馬具／5世紀後半から6世紀後半にかけて5群 18 基におよぶ前方後円墳築造(40～75m)。

・いち早く横穴式石室を採用。多様な石室型式……中央の複数の勢力と連合(白石 1988)

○馬遺体・約 30 例

・馬埋葬土壇に金銅製馬具を伴う……首長の関与(新井原・高岡古墳群 4 号土壇)

・畿内中枢との連携。馬生産による政治的位置と経済的上昇。

・渡来文物は近年、積石塚(渡来系墓制)と百濟土器を発見。後述の上毛野に比べると渡来第1世代は少ない。

イ)長野盆地の動向

○4世紀から 5 世紀前半にかけて優勢な大型前方後円墳が連続。

・森將軍塚 93m(三角縁神獸鏡・板石積竪穴式石室・埴輪)⇒倉科將軍塚 78m⇒土口將軍塚 68m⇒中郷神社 53m⇒前方後円墳が衰退。※5 世紀中葉以降、入れ替わるように伊那谷で前方後円墳が隆盛する。

○長野盆地の 5 世紀中葉以降の動向

・大室古墳群の成立と展開……積石塚を中核とした大規模群集墳(500 基)、合掌型石室

・初期馬具(飯綱社古墳・方墳、林畔古墳・円墳)、木製鞍・壺鐙(榎田遺跡)、馬骨・馬形土製品(大室 168 墳)、飾金具(大星山2号墳)、陶質土器(杉山 G1 号墳)

・積石塚の多出・外来文物あり。延喜式「大室牧」

⇒馬生産者の墓域。ただし韓式系軟質土器はなし。渡来第1世代は希薄。

○長野盆地の特異性・3世紀から渡来文化定着

・八丁鎧塚1号墳(須坂市)・4世紀末の積石塚(国内最古級)、同2号墳・5世紀後半の朝鮮半島製帯金具／浅川遺跡群(長野市)・4世紀の馬形帯鉤／根塚遺跡(木島平村)・3世紀の半島製鉄剣

※弥生後期から渡来集団を受容。※渡来人が地域の中位首長として存在

⇒5世紀中頃に長野盆地の政治的位置づけが変化／長野盆地の首長層解体・移動により、伊那谷の前方後円墳と馬文化の形成

⇒4世紀に渡来人を受容した社会を基盤にして、5世紀に馬生産を大規模導入。積石塚を馬生産集団のアイデンティティとして採用。

○森將軍塚古墳と随伴する古墳

・4世紀の前方後円墳に5世紀の積石塚が寄生して造られる。

・積石塚をアイデンティティとした集団が、森將軍塚古墳被葬者を始祖として擬制的関係を強調。

ウ)甲斐の動向

・4世紀にきわめて優勢な大型前方後円墳が連続／天神山 130m⇒大丸山 100m⇒甲斐銚子塚 169m

⇒岡銚子塚 92m⇒5 世紀には前方後円墳が衰退し、大型方墳(竜塚 56m)が築造される。

・5世紀には王権直下に編成。

・甲府盆地北縁に積石塚が多数存在(横根・桜井古墳群等)。時期は 6 世紀後半から 7 世紀。

・積石塚の時期が、他の地域より後出。渡来系文物は希薄。屯倉設置などによって積石塚をアイデンティティとする馬匹生産集団が移住か。

○延喜式に三牧(穂坂牧・真衣野牧・柏前牧)。

エ)上毛野の動向

○東日本では常に最大級の前方後円墳が定立／前橋天神山 130m(4世紀中葉)、浅間山 172m(4 世紀後半)、白石稻荷山 150m・別所茶臼山 165m(5 世紀初頭)、太田天神山 210m(5 世紀前半)など。倭王権の同盟者。

○『日本書紀』神功・応神・仁徳紀に、上毛野氏祖の対新羅將軍としての外征記事。新羅四邑の民の随伴伝承。

○考古学的事象

- ・5世紀前半から渡来文物が出土。5世紀中葉以降、渡来文物複合を確認／方形積石塚・韓式系軟質土器・馬埋葬土壇・古式馬具・金工品（剣崎長瀬西遺跡ほか）
- ・榛名山東麓の首長連合の配下に渡来集団が抱えられ、地域経営に参画。首長の地域経営戦略。
 - ・馬生産（馬遺存体・馬蹄跡）・金井東裏・白井・長瀬西遺跡ほか
 - ・治水（大水路・築堤・敷粗朶工法）・三ツ寺Ⅰ・北谷・芦田貝戸遺跡
 - ・農業土木（小区画水田）・御布呂遺跡ほか一帯の水田遺跡
 - ・冶金（鉄てい・小鍛冶・羽口・鉄滓）・三ツ寺Ⅰ・金井東裏遺跡ほか

オ)技術者集団移動の実相

○群馬県渋川市金井東裏遺跡

- ・5世紀末の火砕流下から小札甲着装の男性（1号男性）／装備は大形前方後円墳被葬者ランク／近接地から豪族居館を確認……上毛野首長連合の一員とみられる。
- ・遺跡内から小鍛冶遺構・馬遺存体／技術集団の長としての性格
- 1号男性は渡来形質／ストロンチウム分析から中部以西で生育し、移住（田中 2015）。
- 流動的な首長層
 - ・5世紀前半までの渋川地域には大規模墳は不在⇒5世紀後半に渡来系技術集団を受容／前方後円墳被葬者クラス／5世紀後半の渋川地域には円墳と積石塚が併存／金井東裏男性の配下には、渡来1世・渡来2世以後・倭人の重層的な集団。
- 長野盆地・伊那谷・甲斐における馬生産集団の移動に妥当性。

カ)馬生産システム

- ・白井遺跡群……FP 軽石下から馬蹄跡の集中（追い込み場）
 - ・金井東裏遺跡……FA 火砕流で堅穴内に倒れた馬と人／牝馬1頭、幼齡馬2頭。10歳代の馬引き（鎌を所持）。火砕流は初夏の発生。
 - ・黒井峯遺跡などにおける家畜舎／古墳表面や集落外における多数の馬蹄跡
- ※想定されるサイクル……自由放牧⇒初夏の馬追い⇒幼齡馬獲得⇒集落での調教⇒出荷

5. 古墳時代東国の馬生産

○生産システムの多様性

- 東国での馬生産開始（5世紀中頃）は、畿内と時間差が少ない。首長と渡来人の関係にバリエーションあり。
- ・長野盆地……3世紀から渡来人を受容した社会が基盤。5世紀に馬生産システムを円滑に移入。渡来系墓制として認知されていた積石塚を、在地集団の象徴として採用。大首長は存在せず、群集墳被葬者層が大規模な馬生産にシフト。王権直轄的な位置付けか。
 - ・伊那谷……馬生産技術者を配下におく中規模首長たちが、大王や中央氏族と多元的チャンネルを持ちつつ生産を進めるパターン。開始時には長野盆地から一部勢力が移動。
 - ・上毛野……倭王権の一員として外交を担い、朝鮮半島とのチャンネルをもつ大首長たちが、直接的に渡来人を獲得。または既に編成された有力な技術者集団の移入を行い、強力に推進するパターン。
 - ・甲斐……後発し、屯倉開発などに伴って馬生産集団（積石塚を保持）を招致。

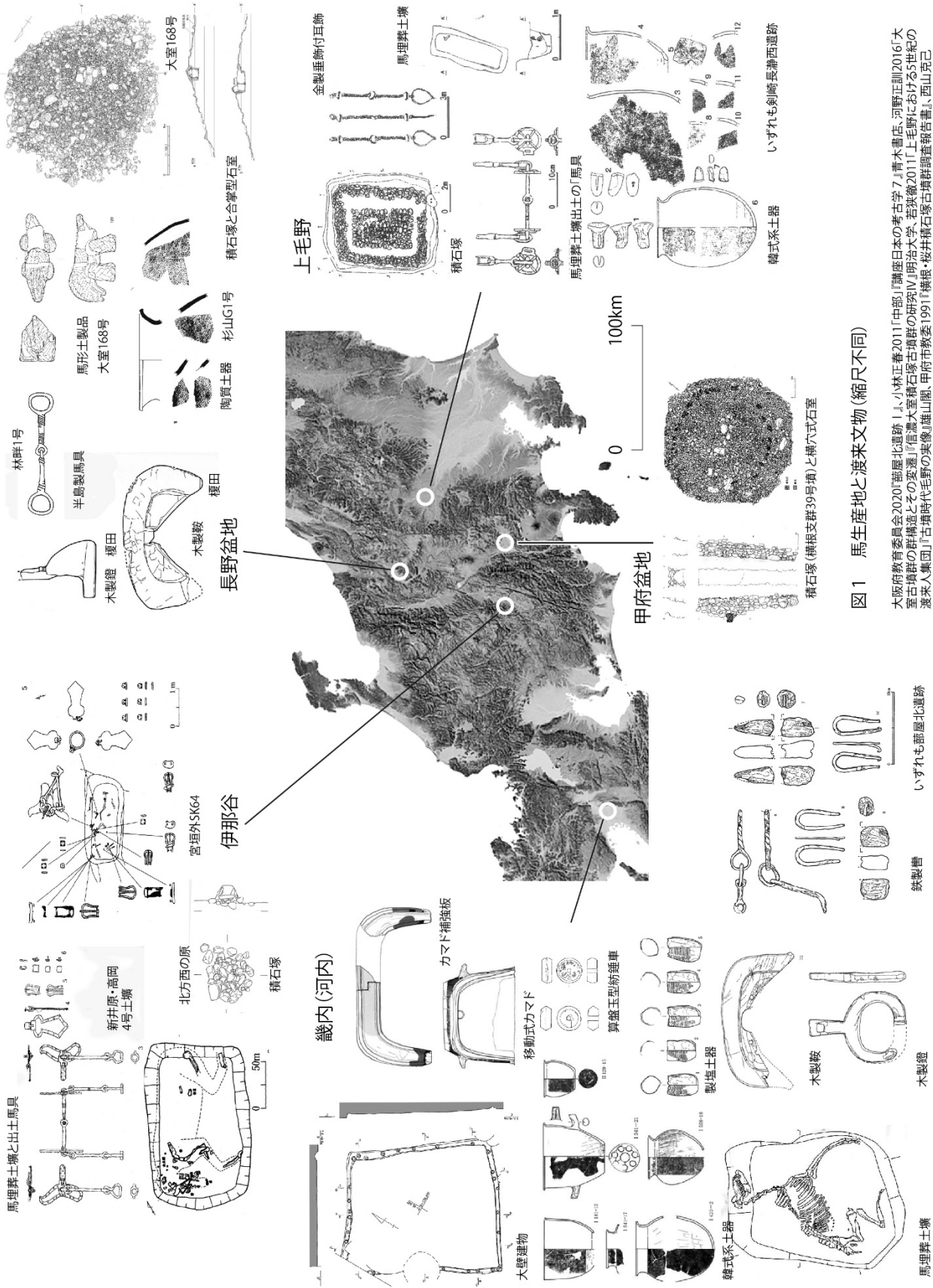
○馬の搬送ルート

- ・プレ東山道ルートの整備による広範な馬の内陸搬送・中継システム整備。神坂峠の祭祀が5世紀から。
- ・ストロンチウム同位体比・酸素同位体比分析からみる中央への供給。
- ・上毛野・信濃における古墳時代後期馬具の出土量の卓越……在地での馬利用。王権の軍事的基盤。

○馬生産地の発展……延喜式の勅旨牧への発展（信濃 16 牧[80 疋]、甲斐3牧[60 疋]、上野9牧[50 疋]、武蔵4牧[50 疋]）

参考文献：若狭徹 2026 『馬と人の古代史』（角川選書） KADOKAWA

↑



↑

図1 畿内と東国の馬生産地と渡来文物(若狭 2026)

図1 馬生産地と渡来文物(縮尺不同)

大阪府教育委員会2020「部屋北遺跡1」、小林正春2011「中部」「講座日本の考古学7」青木書店、河野正訓2016「大室古墳群の群集とその変遷」信濃大室積石塚古墳群の研究IV「明治大学、若狭敬2011「上毛野における5世紀の渡来人集団」「古墳時代毛野の実像」雄山閣、甲府市教委1991「横根・榎井積石塚古墳群調査報告書」、西山克己2020「シナノから科野そして信濃へ」龍鳳書房から作成

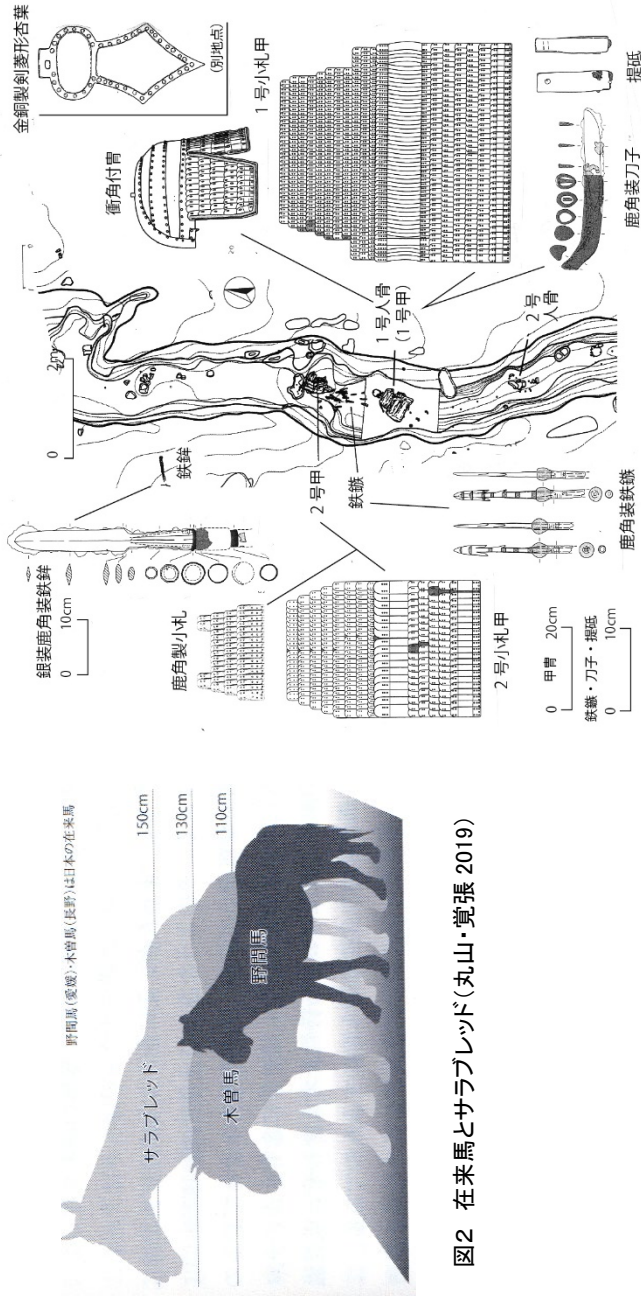


図2 在来馬とサラブレッド(丸山・覚張 2019)

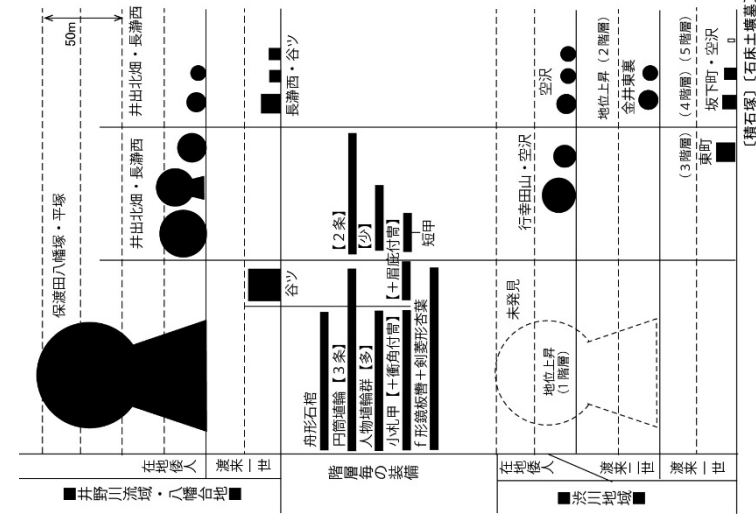


図4 墓から見た上毛野の5世紀の階層構造(若狭作図)

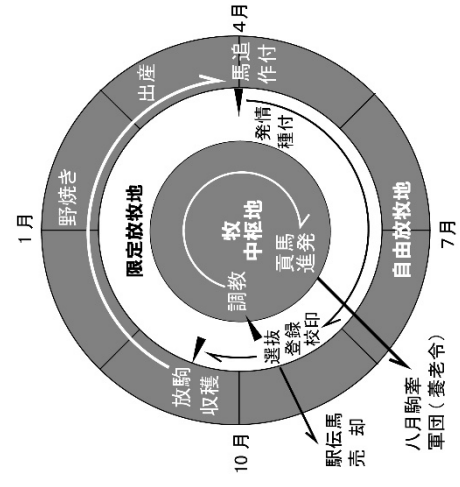


図6 牧の1年(若狭2026)

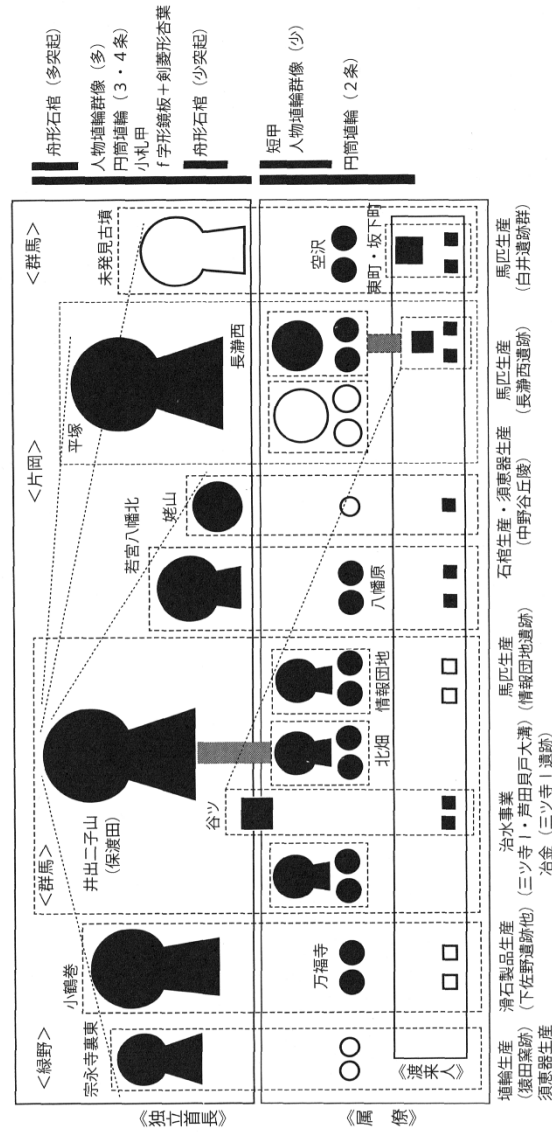


図5 上毛野の5世紀後半の階層構造(若狭2026)